

先生、尾鷲でも本当にあったん？

－思う・知る・調べる・体感する・行動する子どもたちから－

1. はじめに
2. 調べ学習・地域から学ぶ平和について
3. 子どもたちの変化
4. おわりに

三重県教職員組合

疇地 千加子（アゼチ チカコ）

尾鷲市立尾鷲小学校

今次教研で論じられた内容と今後の課題

今次三重県教研では計8本の報告書で、3つの柱にそって討議がおこなわれた。討議の内容や助言・課題も含め、以下にまとめる。

(1) さまざまな教材をいかした平和教育

度会支部からは戦争を題材とした絵本の読み聞かせから、安心して食べ物が食べられるのは平和なことであり、あたり前ではないことを子どもたちの生活と結びつける報告があった。絵本内の戦時の人の表情等から戦争はつらいものと潜在的にとらえさせることもできた報告であった。

名張支部からは名張市のグループ研究会における平和教育についての報告があった。教員自身の学びを深めるため、名張市郷土資料館の見学をおこない、戦時資料の教材化を検討している。また、小中学校の「平和教育」の系統だてのため、「系統表」も作成されている。

グループ研究会では中学2年の平和学習で使用するテレビ番組の戦争特集やふるさと学習のDVDの視聴場面検討をおこなうなど、研究会の研鑽がいかされた報告であった。

三河支部からはネットによる世界情勢の調べ学習をおこない、生徒自身が自分と世界を結びつける実践報告があった。調べ学習後には平和作文作成と交流をおこなった。生徒から「ウクライナ侵攻で世界経済が混乱し、多くの命が奪われているなか、あたり前のことと思っている日常生活を大切に生きるべき」などの感想が上がり、現実を感じ平和のために自分にできことを考えるとりくみであった。

津支部からは、中学3年の長崎修学旅行における平和学習から人権劇をつくりあげ、文化祭で発表する報告があった。出会い学習で被爆体験者の語りを聞いた感想で『『原爆には耐えることはできたが、耐えられないのは周りの人の目』という言葉に差別は絶対にいけないとあらためて思った』というものがあつた。劇では、原爆投下後の長崎のようすや被爆体験者の受けた差別を発信し、下級生にむけて平和の大切さを発信することができた。

討論では、子どもに提示する教材について、人種など限定的にとらえてしまいそうな「絵」などに配慮が必要という課題が出された。また、相手を倒すアニメキャラの使い方についての議論もあった。映像については残酷な場面など子どもたちの心理的側面も考えながら慎重に選んでいく必要も話しあわれた。

(2) ひとりの命に着目した平和教育

松阪支部からは「生まれる命」と「奪われる命」を対比させ、「命の尊さ」を考える授業の報告があった。ウクライナ侵攻の被害状況の動画と視点児童の母の思いを語った動画を視聴し、子どもたちが思いを語りあう実践であった。視点児童はコンプレックス（言葉の壁など）によりクラスに溶けこめないようすがあつたが、授業後には視点児童によりそう子どもの行動がみられた。実践を通して、戦争体験者によりそい、よろこびと悲しみを共有する「心を学ぶ」活動の必要性を実感したという報告であった。

討論では、人権教育と平和教育の関わりで「世界人権宣言」は戦争をなくす前提に、人権を大切にしなければいけないという考えのもとにつくられたものと教えていただいた。

（３）地域や語り部から学ぶ平和教育

鈴鹿支部からは、鈴鹿市の成りたちから学ぶ報告があった。鈴鹿市は「戦争のためにつくられた市」で学校は「戦争に勝つためによい兵隊を育てる学校」という事実を、遠足での遺構見学や出会い学習で鈴鹿市の負の歴史を学ぶ実践がおこなわれた。戦争の現実を「知りたくなかった」という児童もいたが、戦争の爪痕を見て、当時のまま残しておくことの大切さを実感し「自分たちが教えてもらったことを、自分たちの言葉で下の世代に伝えていくことが戦争をなくしていくきっかけになる」という感想の報告があった。

三河支部からは、出会い学習で遺族会会長から当時のようすや地域に残された遺構、会長の父の遺品をもとに、なぜ今も遺族会活動をしているのかを聞き、平和について考える報告があった。子どもたちからは「こんな風に戦争の事を深く考えられたのはSさんのおかげです」などの感想があった。授業後の子どもたちのようすで困っている子によりそう行動が見られた。発表者自身も含め、より身近な平和を考えるきっかけになった実践だった。

紀北支部からは「尾鷲にも戦争があった」ことに着目し、沖縄・広島・長崎・世界で起きている戦争を学び、尾鷲について学ぶ報告があった。市内フィールドワークで尾鷲空襲・熊野灘部隊「駒橋」・地元の戦死者・学校が野戦病院であったことなどを学習し、尾鷲版「平和のさいころ」をつくり、学習の振りかえりをした。平和講演会では「尾鷲の戦争展」主宰者に講演をしていただき「戦争は正しくないことも正しいとってしまう恐ろしいこと」と語っていただいた。6年生を送る会で歌い、合唱ができることの幸せと平和の大切さを子どもたちが実感した報告であった。

討論では、近い将来、戦争体験者がいなくなったときにどうするかを話しあった。伝承講話のデータ化や、支部で保管しているデータの貸しだしを積極的におこなっていくなどの話が出た。また三重県が公開している戦争体験者のインタビューの活用や退職された教職員の方々に依頼するなどの意見が出された。

成果と今後の課題

学校における平和教育活動をどのように位置づけ、年間を通した活動にしていくかについて議論があった。意見として①修学旅行に平和教育を計画する②総合の時間を平和教育に位置づける③地域の戦争体験者との出会い学習から地域をまきこんだとりくみにしていくなどがあった。

助言者からは、辺野古移転問題について沖縄と本土の国民意識に大きな開きがあり、沖縄県民は切迫している事を本土の人たちに感じてほしいという提言があった。また、憲法第9条の学びを大切にして、視野のひろい平和教育をめざしてほしいという提言もあった。

1. はじめに

これは、2022 年度に担任をした 6 年 2 組の総合的な学習の時間における「平和についての学習」のレポートである。尾鷲小学校では、総合的な学習の時間が始まった 2002 年ごろから、第 6 学年のカリキュラムに位置付けられ平和学習がおこなわれている。総合の時間での平和教育が始まってから 20 年以上が経ち、体験談やその当時のようすなどについて子どもたちに伝えてくれる語り部の方たちにも変化があった。

子どもたちは、これまでの学年で、夏の平和学習において読み聞かせや戦争に関する DVD 視聴、普段の生活のなかで日本がアメリカと戦争をしていたことや長崎・広島に原爆が落とされたという事実があることは知っている子が多い。また、社会科「憲法とわたしたちの暮らし」や「戦争と人々の暮らし」（教育出版 小学社会）の学習を通して、広島・長崎に原爆が落とされた前後の出来事、戦争中の子どもたちの生活、戦争でたくさんの人が犠牲になったことを学習する。そこで、自分たちの地元である「尾鷲にも戦争があった」ことに着目し、沖縄の地上戦争・広島・長崎での原爆、世界の戦争に目を向け、調べ学習を通して、戦争の被害や悲惨さ、世界での子どもたちの状況について知り、平和の願いを届けるようとりくみについて知ったり、おこなったりして、平和への願いと戦争をくり返してはいけないということに気づかせたいと考えた。そして、平和への願いと祈りを、自分たちだけでなく、自分たちのまわりの人たちにも伝え、恒久平和を受け継ぐことができることを意識して、授業を組み立てた。

子どもたちについて

わたしは、この学年の子どもたちを 5 年生で担任し、クラス替えをして 6 年 2 組を担当した。34 人のクラスである。全体的に男女仲がよく、休み時間や昼休みになると教室で話をし、昼休みのクラス遊びを楽しみにして運動場に元気よく出ていく姿がみられるクラスであった。自分たちの学校に隣接する山に、防空壕があるということを、保護者から聞いたり、平和学習をしてきた兄や姉たちから聞いたりして、多くの子どもたちは耳にしたことがあった。これまでに、「ちいちゃんのかげおくり」や「一つの花」の国語科の学習を通して、「日本は戦争しとったんさなあ」「日本は戦争に負けたんさな」と、いう発言から、子どもたちのなかでは、「戦争」は過去の出来事で、今を生きる日常は「平和」で当たり前だと思っているのではないかと感じた。しかし、5 年生の 2 月ロシアによるウクライナ侵攻が始まったことを、わたしは、朝の会で新聞の一面記事を子どもたちに見せて話をした。そのことがきっかけで、子どもたちのなかで、今までと変わりなくすごしていた自分たちの日常の「平和」のなかに、世界では軍事侵攻が始まっているという現実、日常の平和が当たり前ではないということ、戦争は怖いと口にする子どもたちが増えてきたなかで、平和学習へのとりくみがはじまった。

2. 調べ学習について

本校では、感染症流行以前は、平和教育の一環として 6 年時の修学旅行で、平和について学習する場を訪れていた。しかしながら、2022 年 6 月の時点では、感染症流行期ということもあり、修学旅行は県内のみでせざるを得なかった。さまざまなことを見たり聞いたりして見聞を広めてほしいこの時期に、行動を制限されてしまうことにより、子どもたちの学習の機会が失われないようにするにはどうしたらよいかを考えた。自分たちの地元である「尾鷲の戦争」

を知り、調べていくなかで、戦争を経験した人々の思いを知ることができるようにと考え、以下のような計画をたてた。

【1 学期】 修学旅行しおりづくり 日本国憲法について知る 戦争について知る 広島と長崎について知る 広島と長崎について調べる 広島と長崎についてまとめる (授業支援ソフトにて)	【2 学期】 沖縄戦について知る 沖縄戦について調べる 沖縄戦についてまとめる (授業支援ソフトにて) 尾鷲に戦争があったことを知る 尾鷲に戦争があったことを調べる 〈地域学習〉尾鷲に戦争があったことを知るための 市内フィールドワーク (秋の遠足) 市内フィールドワークのまとめ (授業支援ソフトにて) 平和のさいころづくり (校内作品展にむけて)
【3 学期】 国調べ (社会科と関連付けて) 尾鷲市戦争展を主催している方を招いての「尾鷲にも戦争があった」講演会 6 年生を送る会での発表へのとりくみ 6 年生を送る会での発表 合唱：「HEIWA の鐘」	

(1) 1 学期 広島・長崎調べ

社会科「憲法とわたしたちの暮らし」において、日本国憲法について学習した。日本国憲法は、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の3つを三原則として1946年に公布され、翌年に施行された。平和主義にある、戦争を二度とくりかえさないという強い信念は、何をもって作られたのだろうかということを話し合った。子どもたちからは、このような意見が出た。子ども：「日本は戦争したことあるから、もう2度としないでおこうって思ったんじゃないかな。」

「戦争らあ、たくさんの人が犠牲になるのになんでするんやろう。」

疇地：「だれもが戦争をしたくない、しなくてもいいって思っているのに、なぜ人は戦争をくり返してしまうんやろう。実際に、今現在、世界では戦争が起こっているよね。みんなどう思うかな？」

子ども：「戦争ってなんで起こるん？」 「国と国同士のケンカさな、先生。」

疇地：「みんなケンカしたことある？」

子ども：「ある。何回もある。」

疇地：「何度も同じ相手が何かしてきたり、言ってきたりしたらどうするん？」

子ども：「やめてくれなったら、やり返す。やられてばっかりやったらいややもん。」

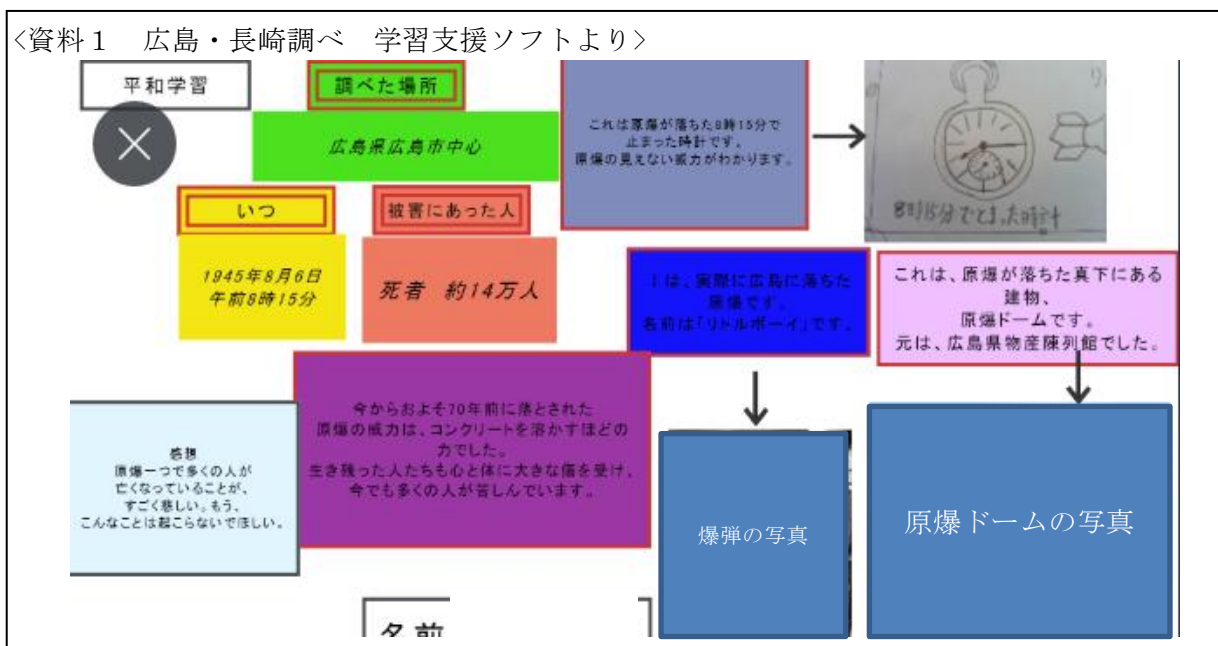
疇地：「話しあいでも仲直りすることはできんのかな？」

子ども：「話しあいしても、あっちが先に手を出して来たらやりかえしたいもん。」

「それが国と国やったらどうなるんかな？」

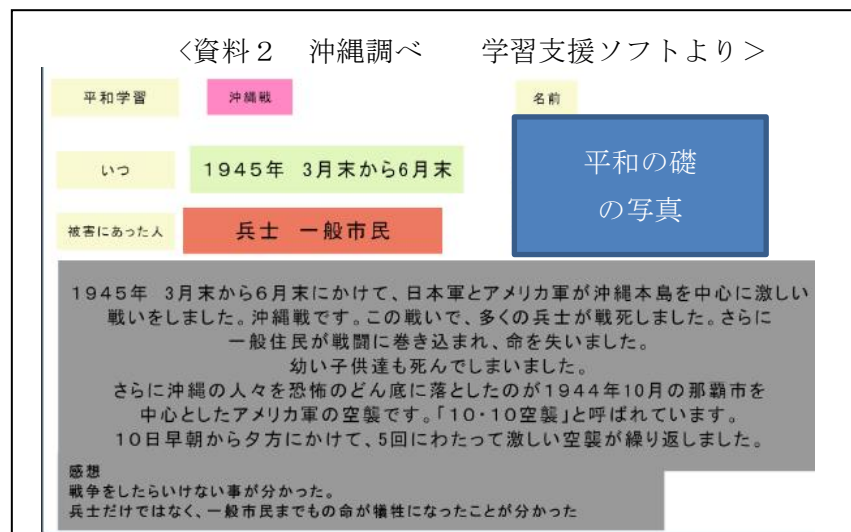
疇地：「それが、戦争の始まりなんじゃないかなあ。」

子どもたちのなかで、普段の生活から戦争につなげて考えることができない子がほとんどであった。戦争は、国と国同士のことで、自分たちの身の回りのことと結びつきにくいところがある。実際、日本が戦争をすることになったことは、国同士のケンカという簡単な言葉で説明することはできないが、国同士が協力しあう、助けあうということができず、自分たちだけが独占したい、自分たちだけよければいいなどという考えが、国単位になると戦争が起こりうるということに気づいてほしという思いがあった。そこから、日本の戦争について話をすすめていった。日本で戦争があったこと、どのようなことがあったのか意見を交流するなかで、子どもたちから、広島と長崎について調べたいという意見がでてきた。そして、広島と長崎のどちらを調べるか個々で決め、主体的に調べ学習ができるようにした。調べ学習には、書籍や1人1台端末を使って調べた。調べた内容は、学習支援ソフトを使って作成した。〈資料1〉



(2) 2学期

①沖縄調べ



1学期の戦争調べのなかで、子どもたちからこんな意見があった。

子ども：「先生。日本の戦争について調べとったら、沖縄のこともいっぱい出てくるんやけど、沖縄でも戦争ってあったん？」

この意見から、2学期は沖縄についても調べようということになった。子どもたちが沖縄にたいして持っているイメージは、5年生の社会科で学習した印象が強かったようで、海、観光地、暑い所などであった。沖縄の戦争については、3学期に社会科「戦争と人々の暮らし」で学習するが、沖縄の戦争の歴史を、総合的な学習の時間にも学習することにした。子どもたちは、なぜ沖縄で地上戦がおこなわれることになったのか、そして、兵隊だけでなく住民をも巻きこんでの戦争になってしまったかということ調べた。調べ学習では、数多くの戦争資料から、調べたいことを見つけることに苦戦している子どもたちもいた。また、学習端末でまとめる際、写真などの資料を添付したいという事から、授業支援ソフトに、調べ学習に関連する画像を用意した。そうすることで、どの子にとっても調べ学習ができる環境をつくることができた。〈資料2〉

②地域学習 ～フィールドワーク 秋の遠足～

沖縄調べをするなかで、沖縄以外の場所において東京大空襲や日本のさまざまな各地でたくさん空襲があったことを知っていく子どもたちから、こんな意見が出た。

- 子ども：「先生。空襲ってさあ、爆弾を落としてたくさんの人の命をねらうんさな。」
- 疇地：「大きな被害を出させて、その国に降参させるためにやね。」
- 子ども：「だったら、人いっぱいおるとこねらうんじゃない？」「だから、大きい都市ねらうんや。」「そしたら尾鷲は田舎やから安全やったんじゃない？」
- 疇地：「安全やったらよかったんやけど。」
- 子ども：「安全ではなかったん？」「え？先生、尾鷲でも本当にあったん？」

この意見から、尾鷲の戦争についての学習が始まった。「尾鷲にも戦争があった」という資料をもとに、学習をすすめていった。尾鷲近隣で空襲があったことや監視哨（かんししょう）があったことを知っていった。自分たちの住んでいる尾鷲でも空襲があったこと、地元の牧場に爆弾が落とされて農場経営者や多くの牛たちが犠牲になったこと、わたしの祖母の弟が戦争で戦死したこと、今自分たちが学んでいる学校が、戦争で傷ついた人たちをてあてする野戦病院となっていたことを伝えた。次第に、子どもたちは、戦争という出来事を「過去の事」と、とらえなくなっていっていった。さらに学習をすすめていくなか、3年生のときに魚市場見学で訪れた尾鷲漁港がある尾鷲湾で、1945年7月28日熊野灘部隊の指揮艦「駒橋」が襲撃を受けたことを学んで知った。子どもたちのなかには、このことにすごく驚いて言葉が出ない子もいた。〈資料3〉

＜資料3 尾鷲の戦争について学ぶための資料から＞



子ども：「先生、本当に尾鷲でも戦争あったんやな。」

「わたしのひいおじいちゃんやひいおばあちゃんたちがこんな生活を送っていたなんて知らなんだ。」

尾鷲で戦争があったことを、資料や調べ学習を通して知ることができた。そこで、実際に、尾鷲で戦争があったことを、見て、感じて、さらに当時の人たちの思いを知ることができるようになればと、秋の遠足で市内平和学習フィールドワークをおこなう計画をした。そこで、遠足に行く前に、これまでの学習を振りかえり、「戦争について思うこと」と題して、これまでに学習したことで思うこと、遠足のフィールドワークで何を学びたいかなどをまとめた。そして、何を見て確かめるのかを示し、子どもたちそれぞれがフィールドワークへ行く目的を明確化した上で、秋の遠足（10月30日）で市内のフィールドワークに出かけた。〈資料4〉

目的地と目的は以下のとおりであった。

墓地：熊野灘部隊「駒橋」の慰霊碑と戦争で亡くなられた方のお墓調べ

寺：熊野灘部隊「駒橋」の尖頭に付いていた菊の御紋見学
住職さんから「駒橋」と平和についての講話をしていただく

防空壕：防空壕跡の見学

<資料4 戦争について思うこと 遠足でみたいもの 学習支援ソフトより>

戦争について思うこと

戦争は悪いことで人を壊してしまったり
狂わせてしまうことなんだなと思いました

遠足では戦争の苦しさや悲しさを知りたい
と思いました

戦争について思うこと

戦争はしてはいけないと思いました。
沢山の人が亡くなって悲しい思いをした人達がいると思います。
爆弾で多くの方が亡くなり爆弾から逃れられても後遺症が残る
そこからの性格も苦しいと思います。
なので戦争は二度としてほしくないです。

遠足に行ったらみたいもの

天満防空壕が見たいです。

<資料5 遠足にて>

墓地



熊野灘部隊の慰霊碑前にて



慰霊碑の前で手を合わせた
子どもたち



墓調べ

寺



住職からの講話



駒橋：菊の御紋

防空壕



防空壕跡



学校裏の防空壕

遠足に行く前、子どもたちのなかには、「先生、遠足って楽しいことするんじゃないん？」
「遊びにいきたい」という意見もあった。そんななか、実際に遠足に行き、自分たちで歩き、
人と出会い、実際に見たり聞いたりすることで、子どもたちのなかで、戦争が想像上のものでは
なく、現実にあったこととしてとらえることができていった。防空壕跡を見て、「こんな狭
い暗い所で空襲から逃げるために何時間も耐えとったなんて信じられん」と口にする子どもも
いた。また、見学中に地域の方と出会い、空襲から逃れるために、サイレンが鳴ったら防空壕
へ逃げて音が止むまでじっと待っていた話や、防空壕ですごく時間が長いことから、中ですご
す気持ちを少しでも楽にしようと、電線を引いて防空壕の中を明るくしていたことなどの戦争
体験談を聞くことができ、その内容を必死にメモをとる子どもの姿があった。そして、遠足へ
行った後の感想では、「自分たちの当たり前の生活がどれだけありがたいことなのか、平和と
はどんなものか教えてもらい勉強になりました。」と書き記す子もあり、多くの子どもたち
が、「遠足に行ってよかった。」「戦争についてさらに詳しく知ることができてよかった。」と思
えた遠足となった。〈資料5・6〉

〈資料6 学習支援ソフトより 遠足感想まとめ〉

2学期総合まとめ

名前

調べ学習・フィールドワーク・平和のさいころでの取り組みについての感想を書きましょう。

戦争のことをたくさん学び、考え
調べたりして戦争はやってはいけない
もう起きてはいけないそんなことが、フィールドワーク
サイコロ、調べ学習をとうして再び分かった。
たくさんの人が一瞬にして消えてしまう
戦争とは、そのような国と国の殺し合い
関係のない人や二十歳にもなってない人
子供などでも戦争に駆り出される
とても悲しく憎むことしかできない事です。
色々な県や国の戦争を見てきたり、調べたり
どうしたら戦争は起こらなくなるのかなどを考えながら、
勉強をしました。
戦争なんてもう二度と起きてほしくないです。

寺

菊の御の紋を見たり駒橋の話や平和について教えてもらったり
したりしました。金剛寺で菊の御紋を50年間保管したことや自
分たちの当たり前の生活がどれだけありがたいことなのか、平
和はどんな物なのかを教えてもらって勉強になりました。

防空壕

防空壕は、思ったよりも小さかったですその後地域の人が津波の
ことや、戦争のことを教えてもらいました。

墓地

白石墓地では、戦争で亡くなった人の墓を見
たりしました。その中で、若く亡くなった人が
沢山いました。

③校内作品展 ～平和のさいころ～

わたしは、以前6年担任をした修学旅行で平和について学習する場を訪れた際、「平和のさ
いころ」の展示を見かけた。6つの面に戦争や平和に関することが書き記してあるさいころ
を、実際に手に取って熱心に見入る子どもの姿を見て、感心させられた。このことがあり、次
6年担任をしたときには、「平和のさいころ」をつくりたいという思いがわたしのなかにあっ

た。子どもたちに、このさいころのことを提案すると、「先生、ええなそれ」「尾鷲小の平和のさいころつくろい」「ぼくらにもできるかな」と、前むきな言葉が返ってきてとてもうれしかった。このさいころをつくることで、これまでの学習の振りかえりにもなればよいと考えた。また、学習をすすめるなかで、世界中には、今、現在も戦争をして辛い生活を強いられている人々がいることを知った。それらに関連してSDGsの「16 平和と公正をすべての人に」について学習をひろげていった。そして、1学期からの学習も含めて、どの題材のさいころにするか子どもたちが相談をして、6つのさいころ（36面）をつくることになった。子どもたちは、調べて知ったこと、学んだことを書き記し、「平和のさいころ」をつくることができた。作品展を鑑賞しに来た保護者のアンケートでは、「子どもたちの1年間のとりくみを形でみることができてよかった。」「子どもたちにとって平和学習は大切なことだと思った。」などの感想をもらうことができた。〈資料7〉

6年1組 さいころの題名			6年2組 さいころの題名		
広島	長崎	尾鷲	広島	長崎	尾鷲
沖縄	武器	外国の戦争	沖縄	戦闘機・武器	SDGs

<資料7 校内作品展 平和のさいころ>



(3) 3学期

① 平和学習講演会 ～戦争展を主催されている方を招いて～

わたしは、平和学習をする上で、実際の物を見たり話を聞いたりすることはとても大切なことだと考えている。そこで、戦争に関する資料や遺品を貸していただくことはできないかと思い、「尾鷲の戦争展」を主催されている方をお願いをすると、快く引き受けてくださったのがAさんであった。Aさんは、子どもたちに平和教育をすることに大賛成をしてくださり、たくさんの資料と遺品を貸してくださった。わたしが、Aさんとお会いして話をするなかで、ぜひともAさんの話を子どもたちに聞かせたいと思うようになった。最初、Aさんは、「人の前で話すのはがてだから、先生が聞いたことを話したってくれたらええんやよ」と言っていたが、実際に子どもたちにAさんを出会わせたいと思い、再度お願いしたところ、「そういう強い思いがあるということでしたら」と言って、引き受けてくださった。当日、会場にはAさんからお借りした、軍艦ラッパ、戦時中のお金、千人針などの遺品や戦争の写真パネルなども展示した。たくさんの資料を用意して講演してくれた。「平和とは?」「戦争中は、敵を倒すことが

正義となってしまう。戦争は、正しくないことも正しいとになってしまう恐ろしいこと。」など、子どもたちとやり取りをしながら話をしてくれた。子どもたちは、しっかり話を聞いて、戦争について平和について考えることができた。

② 6年生を送る会 ～HEIWAの鐘 合唱～

1年間の平和学習の総まとめとして、子どもたちが発表できる場がないかと考えた。わたしは、以前6年生を担任したとき、「HEIWAの鐘」の合唱にとりくんだ。しかし、感染症流行で歌うことができなくなり、合唱を完成させることなく終わってしまった。そのこともあり、1年間平和学習をしてきたこの6年生の子どもたちに、この「HEIWAの鐘」を歌ってほしいと考えていた。2学期中に管理職に相談したところ、合唱ができるかはまだ何とも言えないという返事が返ってきた。年明け、もう一度打診したところ、校長も教育委員会と相談してみると言ってくれ、結果、マスクをしてなら合唱してもよいということになった。合唱ができると許可が出てから発表の日までは約1ヶ月しかない、3年間歌を歌っていない子どもたちが、歌えるかな？できるかな？という不安のなか、練習が始まった。

疇地 : 「平和学習の総まとめで、合唱やろうと思うんやけどどう思う？」

子ども : 「ずっと歌らあ歌ってないのに歌うのはずかしい。」

疇地 : 「1年間学習してきたことを、みんなの歌声で全校のみんなに届けるのはどう？」

子ども : 「ずっと歌えなんだから、みんなで歌って、小学校の思い出にしたい。」

はじめは、全くといっていいほど声がでなかった。3年間で歌えなかった子どもたちは、どうやって声をだしたらいいのかわからなくなっていた。さらに、思春期の子どもたち。歌を歌うことが「恥ずかしい」という子もいた。そんななか、音楽専科の教員にも協力してもらい、わたしも音楽の授業に入り、いっしょに歌った。また、帰りの会でも、今日は1番だけ、今日は2番だけなどと分けて、少しずつみんな練習をした。練習を重ねるごとに、声が出るようになってきた。

子ども : 「先生、みんなで歌えるって楽しいな。」「だいぶ声出るようになってきたやり？」「半分に分かれて練習したら、もっとええなるんちゃあう？」

子どもたちから、よりよいものにしようという前向きな意見が出るようになってきた。子どもたち同士で意見を出しあい、ブレスの箇所を工夫したり、強弱をつけたりして、だんだん上手になっていった。

2023年2月27日。3年ぶりの6年生を送る会。全校児童が体育館に勢ぞろいするのも3年ぶり。3年生は福祉学習の総まとめとして「世界に一つだけの花（手話付き）」、4年生は人権学習に関する尾鷲節太鼓を発表した。在校生が飾りつけてくれた体育館で、さまざまなことが3年ぶりとなった当日、在校生を前にして舞台に立つ卒業生の子どもたちは、緊張しつつも、1年間の平和学習の総まとめの発表ができることのよろこびにあふれ、堂々とした表情で立っていた。そして、これまでの学習の事を思い出しながら、そして、在校生に平和の大切さ・戦争の悲惨さを伝えたいという思いを強くもって、力強く歌うことができた。〈資料8〉

<資料8 子どもたちの一言日記から>

今回の終わりの式で、合奏と合唱をしました。これからもこういったことをがんばりたいです。

3. 子どもたちの変化

送る会での子どもたちの合唱発表は、胸にこみあげてくるものがあった。歌いだしから、LALALA と力強く歌い、平和の鐘を力強く鳴らすかのように歌う子どもたちの歌声は、聞いている人に平和の大切さを訴えかける力があった。この1年間、子どもたちが戦争や平和について主体的に調べたり学んだりする姿をみることができた。子どもたちの思いを聞き、それを行動にうつすことで、させられる調べ学習ではなく、主体的な調べ学習となり、主体的にとりくむ子どもの表情は、本当に素晴らしいと思った。はじめは、「戦争は悲しい。怖い。」という思いであったが、学習をすすめていくなかで、広島や長崎では、多くの犠牲者がいたこと、沖縄では一般市民が巻き込まれたことを知り、被爆された方や戦争のなかくらす人々のつらさを考えられるようになった。さらに、戦争の裏側には、避けられない現実があつて「すべてはお国のために」が合言葉になり、敵を倒すことがよしとされる世の中になってしまうなか、そうせざるを得なかった人たちがいたこと、そういった人たちがいて、今の自分たちがあることに気づけた思いへの変化が、平和学習の成果だと感じている。そして、戦争はなぜ起こるのか、戦争をしないために自分たちができることは、思う・知る・調べる・体感する・行動することだと、子どもたちは実感することができた。〈資料9〉

〈資料9 子ども感想から〉

尾鷲では、戦争があつてたくさんの人が亡くなった。金剛寺の人が辞書で平和とは何か調べたらやすらにおだやかと戦争がなくてあんのうなことと言う意味らしい。潜水艦で食べ物を運ぶのに必要だった。海の中にも山があつてこまはしかいだんこまはし第2かいだんと名前がついている。金剛寺には、駒橋の菊の花がある。昭和8年6時くまのなだおきにアメリカ軍のがきた。日本は、とっこうした。自分が死ぬことが分かっていても家族やくにののためにとっこうした。いつも朝起きて朝ご飯を食べて学校に行つて昼ご飯を食べて帰つてきて夜ご飯を食べて寝るのは、あたりまえじゃない。

墓を見て多くの人がくにのためや家族のために戦争をして国を守つてくれたんだとおもいました。墓が思ったよりおおく、いろんな人が頑張つてくれたんだと感じました。戦争したくない人も巻き込まれてやっぱり戦争最低。墓は、陸軍とか、何歳で亡くなったかを墓に書いている。どこで亡くなったかもわかる。

4. おわりに

わたしは、広島平和記念資料館やドイツの収容所を訪れ、戦争について学んだことがある。そこでは、戦争で苦しい思いをした人々の遺品や爆弾の恐ろしさがわかる展示物を見て衝撃を受けた。人は、なぜ戦争をするのか、戦争をつづけるのかと考えさせられる。そして、いつか訪れて平和について学びたいと思っていた沖縄に、この夏行くことができた。自らの命を絶つた万座毛、飛行機を隠しておくための掩体壕、広大な土地の米軍基地、平和祈念公園。戦争について、平和について、学ばせてもらう機会をつくることができた。そして、わたし自身、実際にみたり、調べたり、平和学習をすすめていく学習を通して、「命・希望・将来を犠牲にしなくてもいいことが平和」だと、考えるようになった。今後も、戦争について平和について子どもたちといっしょに学びつづけ、考えていきたい。

合唱曲

HEIWA の鐘：作詞作曲 仲里幸広